

# ナビちゃんのつぶやき (出来形管理)

「はじめてみよう! 出来形管理」の補足です。  
ナビちゃんがつぶやいています。

※解説内容がオプションプログラムの説明である  
場合があります。ご了承ください。



# 目次

## ナビちゃんをつぶやき (出来形管理)

### 出来形管理

- 01 インデックスで設定した分類を取り込む \_\_\_\_\_ 2
- 02 [測定項目条件設定]の項目について \_\_\_\_\_ 3
- 03 入力方法を切り替える \_\_\_\_\_ 5
- 04 グラフの書式設定について \_\_\_\_\_ 6

# 出来形管理



はじめてみよう!出来形管理の  
出来形管理の補足を確認  
しましょう。

**2** 出来形データの入力(01~03)

---

**3** 帳票の編集(04)

---



# 01 インデックスで設定した分類を取り込む

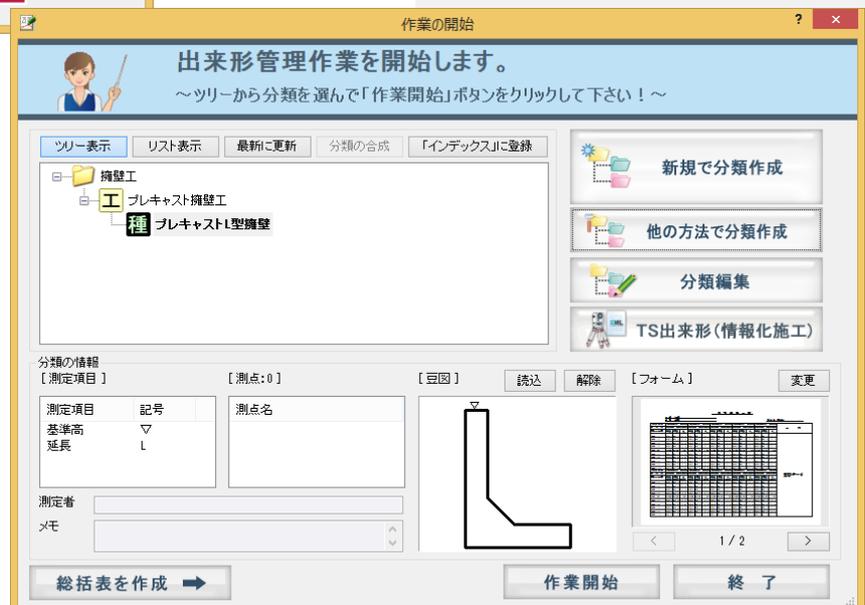
[他の方法で分類作成]—[インデックス]で、インデックスで設定した分類を取り込むことができます。



- 1 [他の方法で分類作成]をクリックします。
- 2 [インデックス]をクリックします。

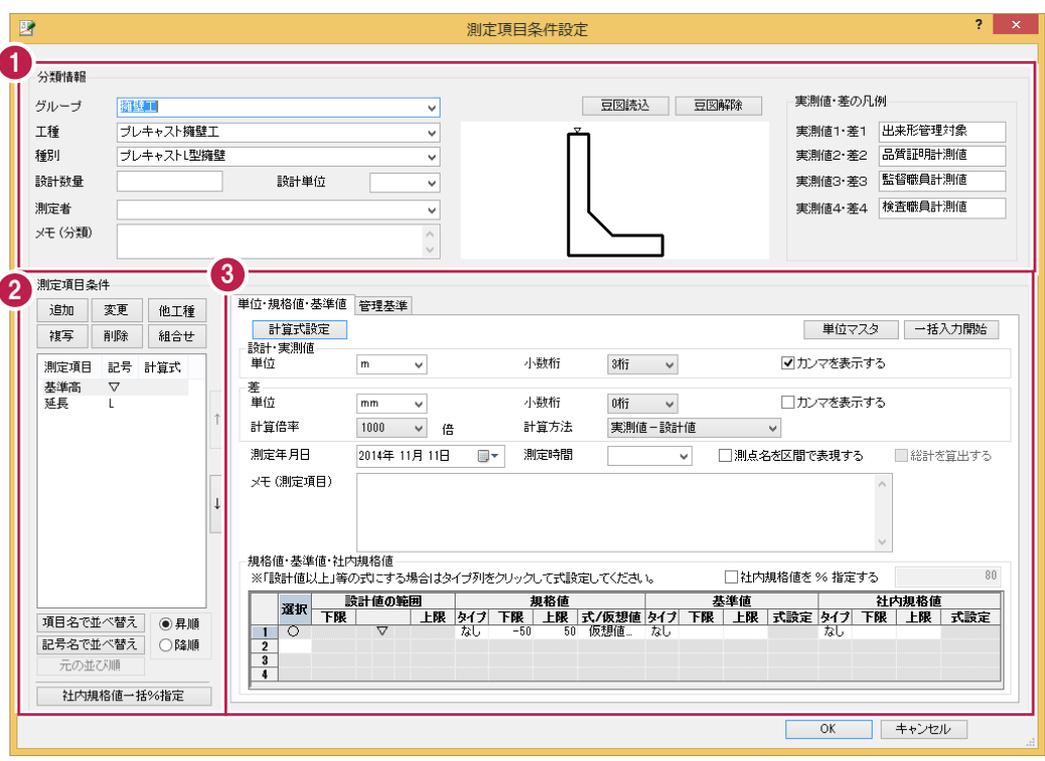


- 3 取り込む分類項目のチェックをオンにします。
- 4 [OK]をクリックします。



# 02 [測定項目条件設定]の項目について

[測定項目条件設定]の項目について解説します。



- |                          |  |
|--------------------------|--|
| <p><b>1</b> [分類情報]</p>   | <p>[グループ]: 分類のグループ名を入力します。</p> <p>[工種]: 分類の工種名を入力します。</p> <p>[種別]: 分類の種別名を入力します。</p> <p>[設計数量][設計単位] (※総括表で使用): 分類の設計数量、設計単位を入力します。</p> <p>[測定者]: 分類の測定者名を入力します。</p> <p>[メモ(分類)]: 分類の覚書などを入力します。「施工管理データXMLファイル」を読み込んだ場合は、「計測点種別」がメモに入力されます。</p> <p>[豆図読込]: [豆図データ管理]から豆図を読み込んで設定します。</p> <p>[豆図解除]: 豆図を解除します。</p> <p>[実測値・差の凡例]: 「実測値 1~4」「差1~4」の名称を入力します。</p>  |
| <p><b>2</b> [測定項目条件]</p> | <p>[追加]: [測定項目入力]で、測定項目を追加します。</p> <p>[変更]: 選択されている測定項目の名称と記号を変更します。</p> <p>[複写]: 選択されている測定項目を複写します。<br/>各条件も複写されます。(下がり設定以外)</p> <p>[削除]: 選択されている測定項目を削除します。</p> <p>[他工種]: [他工種からの読込]で、工事テンプレートから測定項目を追加します。<br/>測定項目には、入力単位や桁数、規格値など各種条件が設定済みです。<br/>読み込み時に同名の測定項目が存在している場合には、読み込んだ測定項目の名称に "-1、-2"と連番が付きます。</p> <p>[組合せ]: 測定項目の組み合わせを使用して、分類を追加します。</p> <p>[項目名で並べ替え]: [昇順][降順]を選択して、項目名で並べ替えます。</p> <p>[記号名で並べ替え]: [昇順][降順]を選択して、記号名で並べ替えます。</p> <p>[元の並び順]: 本ダイアログを開いた時の順番に戻します。</p> <p>[社内規格値一括%指定]: すべての測定項目の社内規格値を規格値の%で設定します。</p> |

<p><b>3</b> [単位・規格値・基準値]タブ</p>	<p>[計算式設定]:「下がり」「勾配」「平均」など、計算により求められる測定項目の場合に[計算式設定]ダイアログで計算式を設定します。計算式が設定された測定項目は、左側の一覧の[計算式]セルに「○」が表示されます。</p> <p>[単位マスタ]:単位マスタを利用して[設計・実測値]と[差]の条件をまとめて設定します。</p> <p>[一括入力開始][一括入力完了]:複数の測定項目の[設計・実測値][差][規格値・基準値・社内規格値]の条件をまとめて設定します。[一括入力開始]を押すと測定項目の前にチェックボックスが表示されますので一括入力する測定項目のチェックをオンにします。条件を設定後[一括入力完了]を押すと、チェックをオンにした測定項目の条件が設定されます。</p> <p>[設計・実測値]:設計値と実測値の単位、小数点以下の桁数、3桁ごとのカンマの表示を設定します。</p> <p>[差]:差の単位、小数点以下の桁数、3桁ごとのカンマの表示、差の倍率、差を求める計算方法を設定します。</p> <p><b>※規格値・基準値・社内規格値の小数桁、カンマを表示する、計算倍率には、差の設定が適用されます。</b></p> <p>[測定年月日]:測定年月日を設定します。</p> <p>[測定時間]:測定時間を設定します。</p> <p>[メモ(測定項目)]:測定項目の覚書などを入力します。</p> <p>[規格値・基準値・社内規格値]</p> <p>[社内規格値を%指定する]:社内規格値を、規格値に対する%で指定するときは、チェックをオンにします。オフのときは、社内規格値をセルで直接指定します。</p> <p>[選択]:規格値・基準値・社内規格値の範囲は4つまで入力することができます。範囲を入力する行の[選択]セルを「○」にします。</p> <p>[設計値の範囲]:設計値の範囲を入力します。</p> <p>[規格値][基準値][社内規格値]:規格値と基準値、社内規格値を設定します。設計値の範囲が複数入力されている場合は、それぞれに値を設定します。</p> <p><b>※社内規格値を設定した場合は、(社内規格値有り)のフォームを選択してください。</b>  (社内規格値有り)のフォームがない場合は、[施工管理フォーマット]で作成することもできます。  詳細は「各種資料(土木)¥武蔵¥入門編(写真・出来形・品質管理)」フォルダー内の「741_施工管理フォーマットの作成.pdf」を参照してください。</p>
<p><b>3</b> [管理基準]タブ</p>	<p>[管理頻度](※総括表で使用):測定項目の管理頻度を入力します。</p>



## 03 入力方法を切り替える

入力方法を切り替えて、測点ごとに測定項目の設計値・実測値を入力します。

No.	測定項目	測定記号	設計値	実測値1	実測値2	実測値3	実測値4	差1	差2	差
1	基準高	▽	122.000	122.018				18		
2	延長	L	20.000	20.000				0		
3										

- 1 [入力切替]をクリックします。
- 2 測点名を選択します。
- 3 基準高、延長の設計値、実測値を入力します。



No.	測定項目	測定記号	設計値	実測値1	実測値2	実測値3	実測値4	差1	差2	差
1	基準高	▽	135.963	135.973				10		
2	延長	L	19.250	19.300				50		
3										

- 4 同様にすべての測点の基準高、延長の設計値、実測値を入力します。

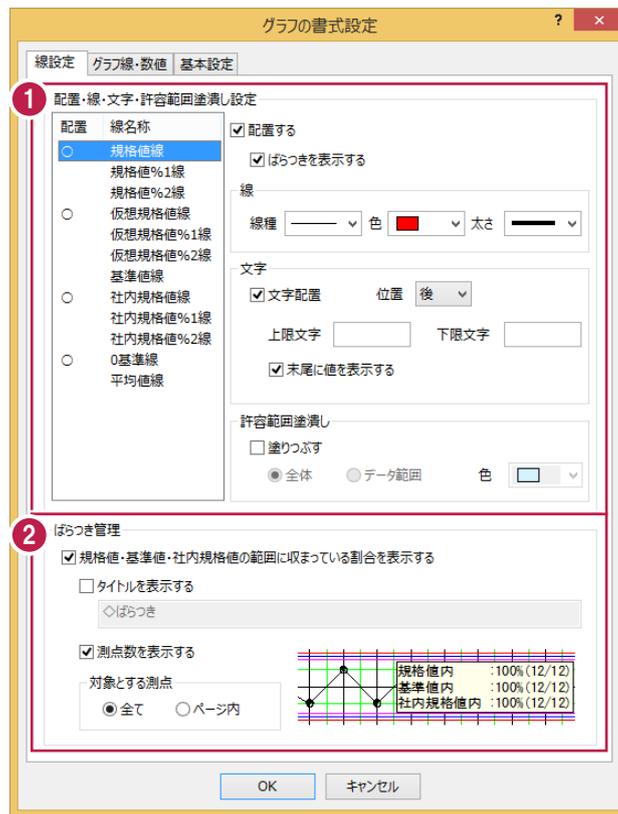


# 04 グラフの書式設定について

[グラフの書式設定]の項目について解説します。

## [線設定]タブ

[グラフの書式設定]の[線設定]タブの項目について解説します。



### 1 [配置・線・文字・許容範囲塗潰し設定]

[配置][線名称]:リスト内の[配置]セルが「○」の線が配置されます。ダブルクリックで「○」と「空白」を切り替えることができます。また[線]や[文字]を設定する場合は、ここで線を選択してから設定します。

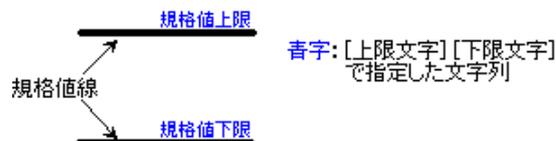
[配置する]:左のリストで選択されている線を配置したい場合は、チェックをオンにします。

[線]:左のリストで選択されている線の[線種][色][太さ]を設定します。

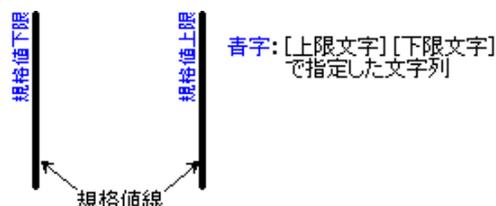
[文字]

[文字配置]:チェックをオンにすると、下図のように[上限文字][下限文字]で指定した文字列が配置されます。

横線の場合



縦線の場合



1 [配置・線・文字・許容範囲塗潰し設定]

[位置]: 文字列を配置する位置を指定します。

横線の場合



縦線の場合



[上限文字]: 上限の線に配置する文字列を入力します。

[下限文字]: 下限の線に配置する文字列を入力します。

[末尾に値を表示する]: チェックをオンにすると、[上限文字][下限文字]の後に数値が表示されます。[上限文字][下限文字]が空白の場合は、数値のみになります。

[差+□桁] (※折れ線グラフの「平均値線」のみの設定): 平均値の数値について、小数部分の桁数を[差の小数桁]+「□」桁で指定します。「0」を指定すると、差と同じ桁数になります。

[許容範囲塗潰し] (※折れ線グラフの「規格値線」のみの設定)

[塗りつぶす]: チェックをオンにすると規格値線の範囲内を塗潰します。

[全体]: グラフの全ての範囲について塗り潰します。

[データ範囲]: 測定データの存在する部分だけ塗り潰します。

[色]: 規格値の範囲を塗りつぶす色を指定します。

2 [ばらつき管理]

[規格値・基準値・社内規格値の範囲に収まっている割合を表示する]: チェックをオンにすると、規格値・基準値・社内規格値の「範囲に収まっている割合」が描かれた凡例が、グラフ上に配置されます。

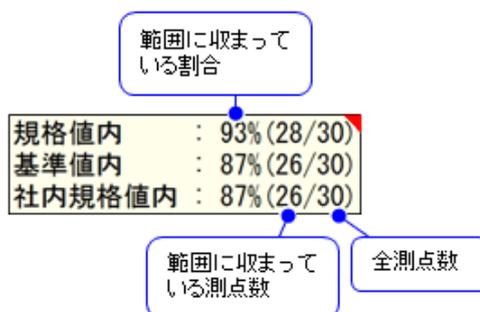
[タイトルを表示する]: タイトルを表示するときは、チェックをオンにしてタイトルを入力します。

[測点数を表示する]: チェックをオンにすると、凡例に、規格値・基準値・社内規格値の「範囲に収まっている測点数」と「全測点数」が表示されます。

[対象とする測点] (※折れ線グラフのみの設定)

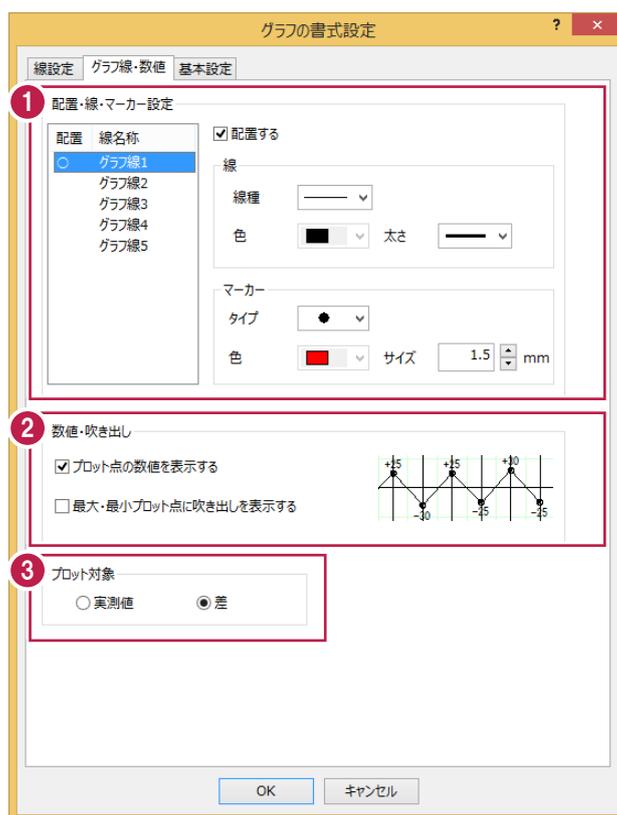
[全て]: 凡例の「範囲に収まっている測点数」と「全測点数」の対象を全ての測点にします。

[ページ内]: 凡例の「範囲に収まっている測点数」と「全測点数」の対象をページ内の測点にします。



## [グラフ線・数値]タブ

[グラフの書式設定]の[グラフ線・数値]タブの項目について解説します。



<p>1 [配置・線・ マーカー設定]</p>	<p>[配置][線名称]:リスト内の[配置]セルが「○」のグラフ線が配置されます。ダブルクリックで「○」と「空白」を切り替えることができます。また[線]や[マーカー]を設定する場合は、ここでグラフ線を選択してから設定します。</p> <p>[配置する]:左のリストで選択されているグラフ線を配置したい場合は、チェックをオンにします。</p> <p>[線]:左のリストで選択されているグラフ線の[線種][色][太さ]を設定します。</p> <p>[マーカー]:左のリストで選択されているグラフ線上に表示されるマーカーについて、[タイプ][色][サイズ]の各ボックスで形状、色、大きさを指定します。</p>
<p>2 [数値・吹き出し]</p>	<p>[プロット点の数値を表示する]:チェックをオンにすると、グラフのプロット点に数値が描かれます。</p> <p>[最大・最小プロット点に吹き出しを表示する]:チェックをオンにすると、最大値と最小値のプロット点に、「○○:最大値」「××:最小値」と描かれます。</p>
<p>3 [プロット対象]</p>	<p>[実測値]:実測値のグラフを描画するときに選択します。</p> <p>[差]:差のグラフを描画するときに選択します。</p>

## [基本設定]タブ

[グラフの書式設定]の[基本設定]タブの項目について解説します。

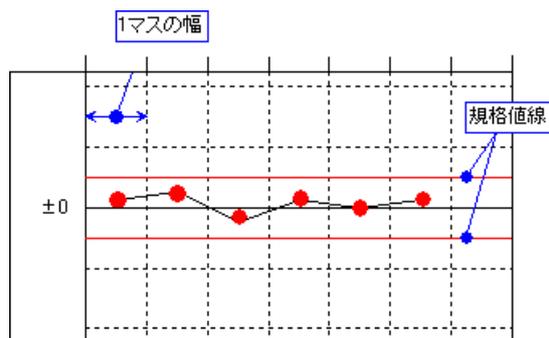
### 1 [数値軸の設定]

[範囲指定]: オンのときは、グラフの上限値および下限値となる値を「任意で指定」します。オフのときは、グラフの上限値および下限値となる値を「規格値から自動設定」します。

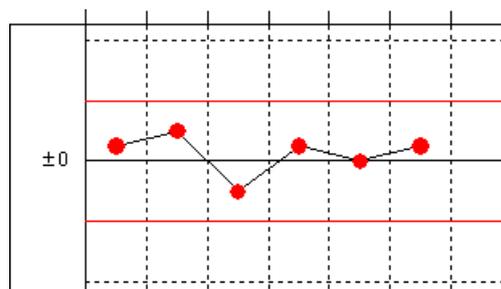
[規格値線の位置] (\*[範囲指定]のチェックがオフのときに設定可能)

[0.5 マス目][1 マス目][2 マス目]: 規格値線の位置を「0 基準線」から何マスはなれた位置にするかを選択します。この設定によりグラフの振り幅が決まります。

[0.5 マス目]を選択した場合

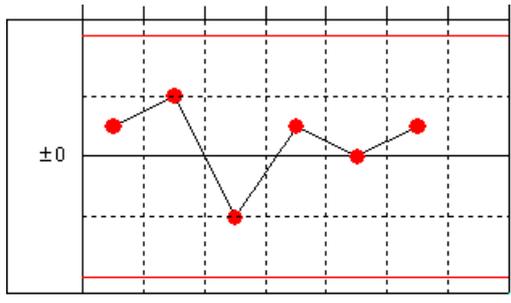


[1 マス目]を選択した場合

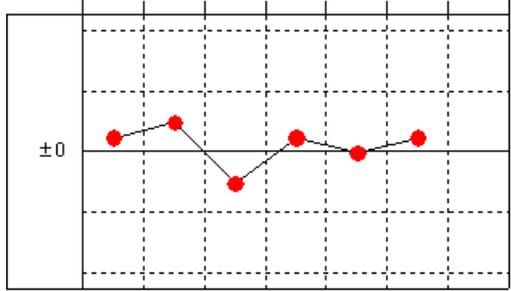


1 [数値軸の設定]

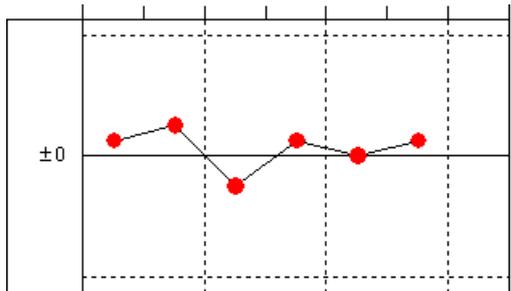
[2マス目]を選択した場合



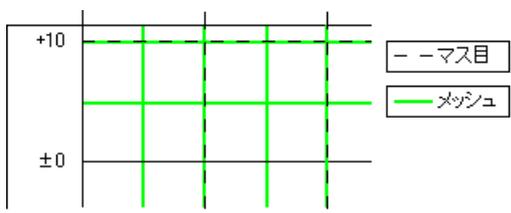
[1マスの幅] (※[範囲指定]のチェックがオフのときに設定可能)  
 [測点セル×1] [測点セル×2]: 1マスの幅を、測点間の距離の倍率で設定します。  
 [測点セル×1]を選択した場合



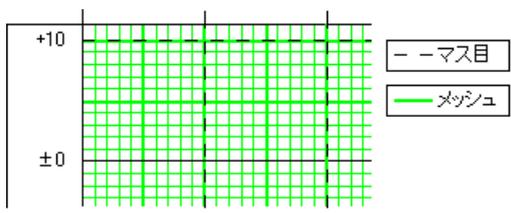
[測点セル×2]を選択した場合



[メッシュを配置する]: チェックをオンにすると、マス目を線で表示した「メッシュ」がグラフ上に配置されます。[線種] [色] [太さ]でメッシュの線種、色、太さを指定します。  
 (0.5マス目の部分にもメッシュが配置されます。)  
 またメッシュを配置すると、メッシュの数値が見出しに表示されます。



[最小メッシュを表示する]: チェックをオンにすると、メッシュを10等分した最小メッシュを表示します。線種と色はマス目と同じ設定になります。太さは固定です



## 1 [数値軸の設定]

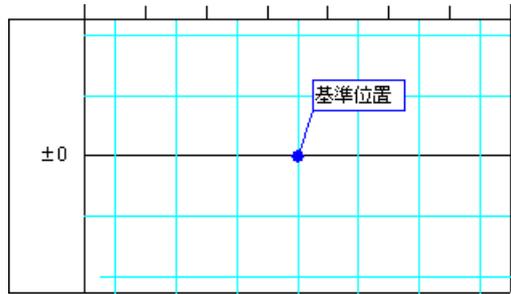
[メッシュ開始位置]

[センター][左]:メッシュを描く基準位置を指定します。

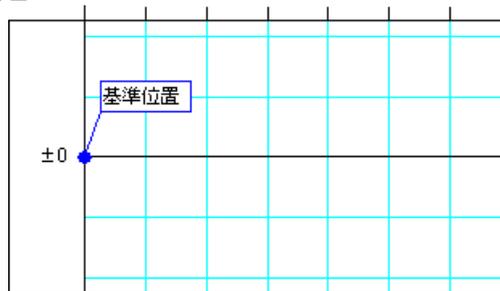
[センター]を選択すると、グラフの測点軸の中心を基準にメッシュが描かれます。

[左]を選択すると、測点軸の開始位置を基準にメッシュが描かれます。

[センター]を選択した場合



[左]を選択した場合

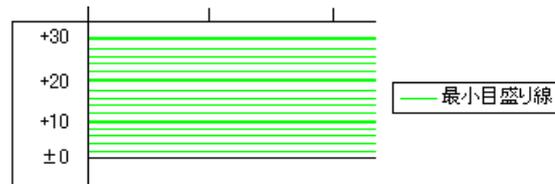


[目盛り線を表示する]:チェックをオンにすると、「目盛り」と「目盛り線」がグラフ上に配置されます。[線種][色][太さ]で目盛り線の線種、色、太さを指定します。

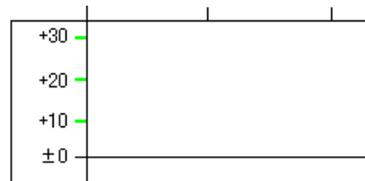
また目盛り線を配置すると、目盛りの数値が見出しに表示されます。



[最小目盛り線を表示する]:チェックをオンにすると、目盛りを5等分した「最小目盛り線」が描かれます。



[見出し部分に描画する]:チェックをオンにすると、グラフ内には目盛り線を描かず、見出し部分に描かれます。



[線種][色][太さ]:「メッシュ」または「目盛り線」の線種、色、太さを指定します。

[目盛り符号]:[▼]をクリックして表示されるリストから、見出しに表示される数値(0、規格値、基準値、社内規格値、目盛り)の符号部分の表示方法を選択します。

[数値表示]

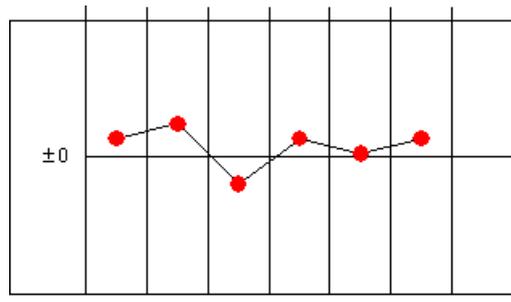
[規格値を表示]:チェックをオンにすると規格値の数値が見出しに表示されます。

[基準値を表示]:チェックをオンにすると基準値の数値が見出しに表示されます。

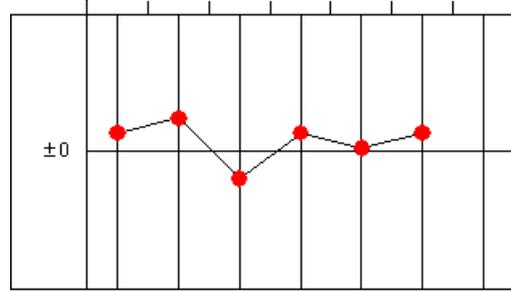
[社内規格値を表示]:チェックをオンにすると社内規格値の数値が見出しに表示されます。

2 [測点軸の設定]

[測点セル単位に罫線を配置する]: マーカーの間に罫線を配置する場合はチェックをオンにします。

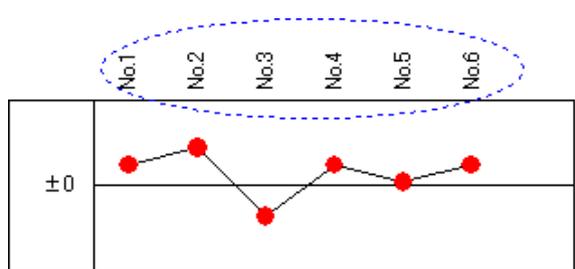


[グラフマーカー上に方眼を配置する]: グラフマーカー上を通過するように罫線を配置する場合はチェックをオンにします。[線種][色][太さ]で罫線の線種、色、太さを指定します。



3 [測点名をグラフの横に表示する測点軸の設定]

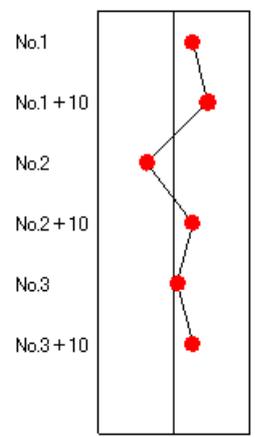
[測点名をグラフの横に表示する]: チェックをオンにすると、グラフの枠の外側に[測点軸への表示]で選択した値が表示されます。



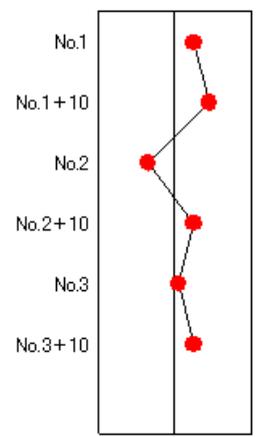
[上・右(プラス側)][下・左(マイナス側)]: [測点軸への表示]で選択した値を配置する位置を選択します。

[グラフから距離を指定して配置]: チェックをオンにすると、測点名をグラフ側から指定された距離だけ離れた位置に寄せて配置します。チェックをオフにすると、測点名をグラフ側に寄せて配置します。

チェックボックス: オン

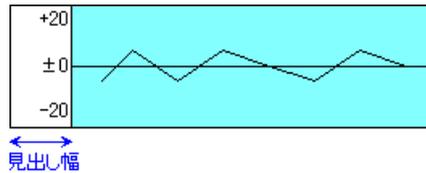


チェックボックス: オフ



4 [見出し]

[見出し幅]: 選択したグラフの見出し幅を入力します。



[反対側に配置する]: チェックをオンにすると、見出し領域を右側 (縦グラフの場合は下) に配置します。

チェックをオフにすると、見出し領域を左側 (縦グラフの場合は上) に配置します。

5 [余白を設ける]

[余白を設ける]: チェックをオンにすると、数値軸方向を縮小し、横グラフなら領域の上下、縦グラフなら領域の左右に余白を設けます。

チェックをオフにすると、領域全体にグラフを描画します。